

<注意事項>

- このレポートは、問題1・問題2がある。すべて解答すること。
- 経済学部教務係の提出用BOXに提出すること。提出期限は1月28日(木)午前10時40分とする。E-mailによる提出は認めない。
- 日本語または英語で解答すること。
- 問題について相談することは構わないが、レポートは自分自身の力で書くこと。
- 字数については問題文の指示に従うこと。
- 解答用紙は特に指定しない。
- 解答はWordなどで作成することが望ましいが、手書きでもよい。
- まったく同じ文面のレポートが複数見つかった場合は、それらすべてを0点とする。
- 解答の際には、講義にあるデータファイル（SE-report2-2015.xlsx）のデータを用いること。当該データは、講義資料の掲載箇所と同じ場所にあります。

URL: http://www.econ.kobe-u.ac.jp/student/undergrad/data_2.html

※【神戸大学経済学部トップページ→在学生／卒業生の方へ→学部生の方へ・授業

→講義資料・後期（ページの一番下）→経済統計学】の順にたどること

問題1（国際収支表）

- (1) 国際収支表の計算ルールに従い、データファイル「問題1」のシートにある国際収支表（年度）の空所①～⑧の数字を求めなさい。また、用いた計算ルールも明示すること
※なおこの表は、講義中に配布したものと異なるので注意すること。
- (2) 下にある国際収支表で、2003年度は他の年度と比較して、外貨準備高が非常に大きい。その背景を説明しなさい（500字～1000字程度）。

問題2

- (1) データファイル「問題2」のシートにあるデータを用いて、ケインズ型消費関数を最小二乗法で推定しなさい。サンプル期間は1960年第1四半期（1960:Q1）から1998年第1四半期（1998:Q1）とする。ケインズ型消費関数は、各変数の自然対数をとって推定するが、ファイルにある各変数はすでに自然対数をとったものなので、そのまま推定に用いてよい。
なお推定の際には定数項を含め、推定結果には**定数項・傾きの係数それぞれの推定値・t値**を記載すること。数値は小数点第4位以下を四捨五入すること。（例：3.4567→3.457）
- (2) (1)の結果から、どのようなことがいえるか。ケインズ型消費関数の満たすべき符号条件に即して論じなさい（500字～1000字程度）。※講義内容に従って解答すること。

（問題ここまで）